

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成20年3月6日(2008.3.6)

【公表番号】特表2007-526944(P2007-526944A)

【公表日】平成19年9月20日(2007.9.20)

【年通号数】公開・登録公報2007-036

【出願番号】特願2007-501784(P2007-501784)

【国際特許分類】

C 1 1 D	1/02	(2006.01)
H 0 1 L	21/304	(2006.01)
C 1 1 D	3/02	(2006.01)
C 1 1 D	3/39	(2006.01)
C 1 1 D	17/08	(2006.01)
C 2 3 G	5/02	(2006.01)

【F I】

C 1 1 D	1/02	
H 0 1 L	21/304	6 4 7 B
C 1 1 D	3/02	
C 1 1 D	3/39	
C 1 1 D	17/08	
C 2 3 G	5/02	

【手続補正書】

【提出日】平成20年1月17日(2008.1.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

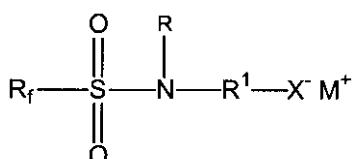
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a)式

【化1】



(式中、

R_f は $\text{C}_2 \sim \text{C}_6$ パーカロアルキル基であり、

R は、カテナリーアルキル基、アルキルアミンオキシドまたはアミノアルキル基であり、

R^1 は式 $-\text{C}_n-\text{H}_{2n}(\text{CHOH})_o\text{C}_m\text{H}_{2m}-$ (式中、 n および m は独立して1~6であり、 o は0または1である)のアルキレン基であり、前記アルキレンはカテナリーアルキル基、

または硫黄原子によって任意に中断されてよく、

X^- は SO_3^- または $-\text{CO}_2^-$ であり、

M^+ はカチオンである)

の少なくとも1種の界面活性剤を少なくとも10パーツパーミリオン(ppm)、

(b)溶媒および

(c)酸化剤

を含む組成物。

【請求項2】

基材をクリーニングする方法であって、

(a)請求項1に記載の組成物を提供する工程と、

(b)基材を提供する工程と、

(c)前記基材の表面と前記組成物を互いに接触させて界面を形成する工程と、

(d)所望しない表面材料を除去させる工程と

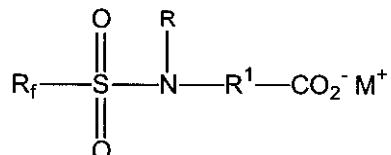
を含む方法。

【請求項3】

(a)酸および

(b)式

【化2】



(式中、

R_f は $C_2 \sim C_6$ パフルオロアルキル基であり、

R は、カテナリー酸素、窒素または硫黄原子によって任意に中断されてよい $C_2 \sim C_{25}$ アルキル、ヒドロキシアルキル、アルキルアミンオキシドまたはアミノアルキル基であり、

R^1 は式 $-C_n-H_{2n}(CHOH)_nC_mH_{2m}-$ (式中、 n および m は独立して1~6であり

、 \circ は0または1である)のアルキレン基であり、前記アルキレンはカテナリー酸素、窒

素または硫黄原子によって任意に中断されてよく、

M^+ はカチオンである)

の界面活性剤

を含む水性クリーニング溶液。

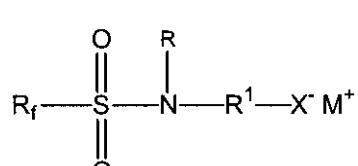
【請求項4】

基材を請求項3に記載のクリーニング溶液に接触させることを含む、基材をクリーニングする方法。

【請求項5】

式

【化3】



(式中、

R_f は $C_2 \sim C_6$ パフルオロアルキル基であり、

Rは、カテナリー酸素、窒素または硫黄原子によって任意に中断されてよいC₂～C₂₅アルキル、ヒドロキシアルキル、アルキルアミンオキシドまたはアミノアルキル基であり、R¹は式 -C_n-H_{2n}(CHOH)_oC_mH_{2m}-（式中、nおよびmは独立して1～6であり、oは0または1である）のアルキレン基であり、前記アルキレンはカテナリー酸素、窒素または硫黄原子によって任意に中断されてよく、

X⁻はSO₃⁻またはCO₃⁻であり、

M⁺はカチオンである）

の少なくとも1種の界面活性剤を少なくとも10ppm含む水性クリーニング溶液であつて、7以上のpHを有する溶液。